

学位記番号： 修士第51号

氏名（本籍）： 高岡勝代（京都府）

学位の種類： 修士（看護学）

学位授与年月日： 平成16年3月25日

学位論文題目： 女性糖尿病患者の家族役割と療養行動の調整

論文内容要旨

※整理番号	52	(ふりがな) 氏名	たかおか かつよ 高岡 勝代
修士論文題目	女性糖尿病患者の家族役割と療養行動の調整		
<p>研究目的</p> <p>本研究の目的は、女性糖尿病患者が、家族役割と療養行動をどのように考慮し、調整しようとしているのか明らかにすることである。</p> <p>研究方法</p> <p>上子の役割理論を基に研究の枠組みを設定し、質的・帰納的方法で研究した。女性の 2 型糖尿病患者を対象に、半構成面接 (In-depth interview) を用いてデータ収集を行った。データは、KJ 法を基に分析した。</p> <p>研究結果</p> <p>18 名の女性糖尿病患者に半構成面接を行い、15 名を分析対象とした。平均年齢は、53.40 歳であった。家族形態は、12 名が核家族、3 名は拡大家族であった。</p> <p>15 名のデータから、619 個の意味項目が得られた。そして、下位カテゴリ 64 個、中位カテゴリ 24 個、上位カテゴリ 7 個が抽出された。</p> <p>考察</p> <p>女性糖尿病患者は、【生活の優先順位の決定】によって家族役割と療養行動の調整を行っていた。家族役割と療養行動の調整のプロセスは、抽出された 7 個の上位カテゴリから次のように説明することができた。</p> <p>女性糖尿病患者は、糖尿病に対して【糖尿病という病に対する恐れ】、【糖尿病を直視できない】、【糖尿病との対峙】という複雑な気持ちを持っており、これらは循環していた。女性糖尿病患者は、家族との生活の中で、【家族に対する責任感】を感じていた。また、療養行動に対して【療養行動に対する気持ち】を抱いていた。糖尿病に対する複雑な気持ちと【家族に対する責任感】と【療養行動に対する気持ち】を考慮する時に、【家族とのつながりの確認】が影響を及ぼしていた。そして、【生活の優先順位の決定】を行うことで、家族役割と療養行動を調整していた。女性糖尿病患者にとって、【家族とのつながりの確認】は、「他者関連的自己」の確認に関連し、家族のために健康でなければならないという思いから、積極的な療養行動を促すことへつながっていた。また、【家族とのつながりの確認】は、家族からの情緒的サポートを受けていることを表すものであった。女性糖尿病患者は、普段は家族役割と療養行動をやりくりしていたが、自分に入院の必要が生じた時や家族の看病が必要になった時などは、自分の療養行動よりも「家族に対する責任感」から、家族を優先する傾向にあった。</p> <p>総括</p> <p>本研究は、女性糖尿病患者が、家族役割と療養行動をどのように考慮し、調整しようとしているのか明らかにすることを目的として行った。その結果、女性糖尿病患者は、家族から多くの情緒的サポートを受け、【生活の優先順位の決定】によって家族役割と療養行動を調整していることが明らかになった。しかし、自分に入院の必要が生じた時や家族の看病が必要になったときなどは、家族に対する責任感から、自分の療養行動よりも家族を優先する傾向にあった。このような時には、看護者は、女性糖尿病患者が、「家族のために健康でなければならない」と思えるような働きかけが重要であることが示唆された。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。